

横浜銀行六十年史



横浜港と市街



ごあいさつ

大正9年、横浜興信銀行として設立された当行は、昭和55年12月16日をもって創立60周年を迎えることができました。これはひとえに、お取引先、株主の方々、および地域社会、関係ご当局の長年にわたるご愛顧の賜物であり、心から感謝申し上げる次第であります。また同時に、当行創立以来の多くの諸先輩のご功績と全役職員の努力に対し、深い敬意を表するものであります。

顧りみますと、大正9年に襲った金融恐慌は、生糸を中心に繁栄を謳歌していた横浜経済に大きな打撃を与え、地元最大の七十四銀行も存亡の危機に追い込まれました。厳しい事態に直面して、横浜財界は挙げて市民救済に立ち上り、市民生活への影響を最小限にとどめるため、七十四銀行の整理を目的として、横浜興信銀行を設立したのであります。

爾来60年、当行の歴史は、まことに苦難の連続でありました。設立直後に襲った関東大震災、昭和初期の金融恐慌、そして太平洋戦争による横浜の潰滅、戦後の長期にわたる接収など、横浜経済も、当行も、苦しい試練の時代を耐えることを余儀なくされたのであります。

しかし、こうした試練の経験は当行の大きな力となり、日本経済が発展期を迎えるに至って大きく開花するところとなりました。昭和32年には行名を横浜銀行と改めましたが、これは名実ともに試練の時代に訣別し、新しい躍進に向けて積極的な経営展開を期したものであり、当行60年の歴史の中で一大エポックを画す出来事でありました。

以降20数年、当行は地域のめざましい発展に支えられ、またその時々適切な経営方針の展開を通じて、今日の地歩を築きあげることができたのであ



ります。

しかし何と申しましても、当行の今日ありますのは、地域の方々の暖かいご支援の賜物であります。地域財界の総意で設立された当行は、いわば生まれながらのコミュニティバンクとして、地域の繁栄に貢献することを基本的使命として貫いてまいりましたが、苦難の時も、飛躍の時期も、地域の方々から大きな信頼をいただき、常に変らぬ激励と全面的なご支援をいただくことができたのであります。

創立60周年に際し、このような当行の足跡を明らかにし、当行を支えていただいた地域経済の歴史を記録にとどめ、次の世代に引継ぐことが私どもの責務と考え、創立以来60年の通史として、「横浜銀行60年史」を刊行することとした次第であります。

激動の80年代を迎えて、今後の経済、社会は多くの変革が予想されますが、私どもはこの60年史を通じて、先人の英知と体験を学び、新しい銀行像の実現に新たな決意で臨む所存であります。

ここに、日頃ご愛顧いただいております各位に本史をご高覧賜わり、当行に対するご理解を深めていただきますとともに、一層のご支援を賜わりますよう心からお願い申しあげまして、刊行のご挨拶といたします

頭取

吉國二郎

本店



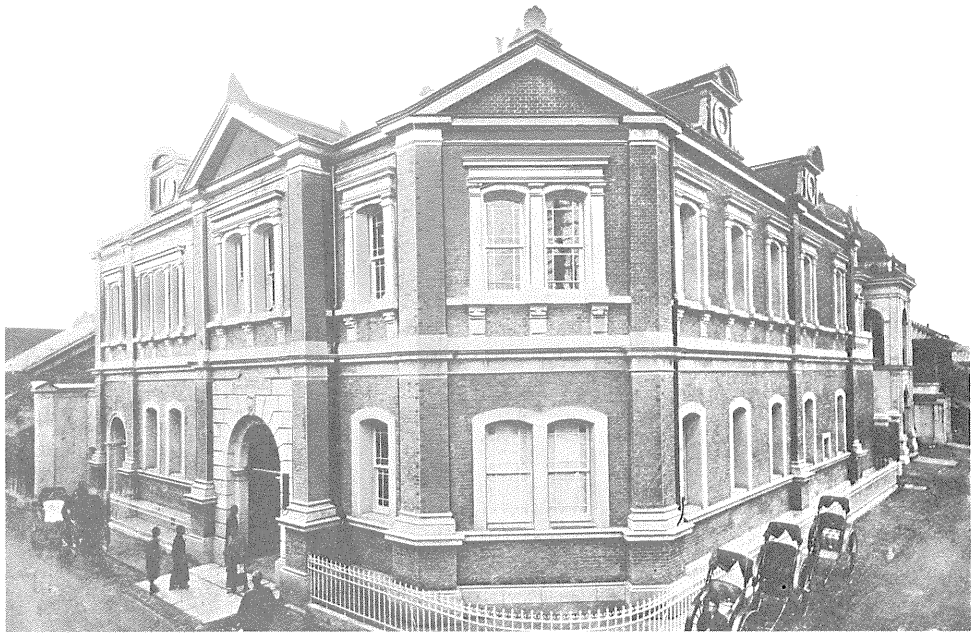
現役員



常務取締役 本田和男
 常務取締役 田口正久
 常務取締役 北川康二
 専務取締役 金子家啓
 頭 取 吉國二郎
 副頭 取 秋山英夫
 専務取締役 相原三郎
 常務取締役 小風 稔
 常務取締役 上野豊重
 前列左から

監査役 布川昭藏
 監査役 佐藤 捷
 取締役 中嶋一司
 取締役 森西 洋
 取締役 河野和夫
 取締役 黒沢昭雄
 取締役 瀬戸 勲
 取締役 熊田節郎
 取締役 助川 顕
 取締役 山口光男
 取締役 丸山 勉
 取締役 岸本和之
 取締役 松村 皎
 監査役 伊藤辰男
 後列左から

旧本店



創立時～大正12年(横浜市南仲通)



昭和13年～昭和35年(横浜市中区住吉町)

目次

ごあいさつ

頭取 吉國二郎

口 絵

凡 例

本 史

第1部 試練の時代 1

第1章 当行設立以前 5

第1節 開国と横浜 5

1 横浜開港 5

2 横浜の商人と貿易 7

横浜の内外商人——幕末期の横浜貿易——貿易の推移と金貨の流出

第2節 銀行の誕生と貨幣制度の確立 12

1 明治時代の日本経済 12

殖産興業政策と松方財政——日清・日露戦争前後の経済

2 国立・私立銀行の創設とその消長 15

最初の金融機関—為替会社—国立銀行の創設—私立銀行—普通銀行・
貯蓄銀行—の発展

3 金本位制の確立と金融機構の整備 22

貨幣制度の変遷——日本銀行の設立——金本位制の確立——特殊銀行の設立と
金融機構の整備

第3節 神奈川県下の銀行の消長 27

1 明治時代の神奈川県 27

行政区域の変遷——横浜港の貿易——県下の産業	
2 神奈川県下の国立銀行	33
横浜為替会社——第二国立銀行と第七十四国立銀行——その他の国立銀行	
3 神奈川県下の私立銀行	37
第4節 第一次世界大戦前後の経済情勢と横浜	40
1 戦時、戦後の日本経済の発展	40
戦争景気と貿易の好転——産業界の活況と工業化の進展	
2 発展する横浜の経済	42
軽工業から重化学工業へ——横浜港の活況——生糸輸出の動向と蚕糸業の救済	
3 大正9年の反動恐慌と横浜の金融恐慌	46
反動恐慌起こる——銀行の取付け・休業の頻発——横浜の金融恐慌	
第5節 七十四銀行の休業とその影響	48
1 茂木合名の破綻と七十四銀行の休業	48
七十四銀行の消長——茂木合名の破綻——休業前後の七十四銀行の経営内容	
2 七十四銀行の整理をめぐって	52
休業の影響——難局打開へ横浜財界の奔走	
第2章 当行設立とその後の発展	56
第1節 横浜興信銀行の設立	56
1 設立への努力	56
七十四銀行整理案の内容——承諾書の徴集	
2 重い使命を担って	58
3 開業直後の状況	61
七十四銀行第1次預金払戻しの開始——第1期決算の内容	
第2節 関東大震災の試練	62
1 関東大震災と当行	62
反動恐慌後の経済情勢——順調な業容拡大——関東大震災による被害	

2	大震災後の横浜の経済……………	67
	商工業等の被害状況——生糸輸出二港問題	
3	大正時代の銀行業の動向……………	71
	銀行合同の動向——銀行制度の整備改善——県下銀行の動向——県下の銀行合同	
	同	
	第3節 昭和初期の金融恐慌と当行の合同……………	77
1	金融恐慌前後の経済・金融情勢……………	77
	金融恐慌前の経済情勢——震災手形処理問題から金融恐慌へ——金融恐慌の経過——大銀行への預金集中——金解禁と経済恐慌	
2	当行の合同進む——左右田・第二・横浜貿易・元町との合同……………	84
	金融恐慌前後の当行——左右田銀行との合同——銀行法の制定による合同促進——第二銀行・横浜貿易銀行・元町銀行との合同——合同による当行業容の変化	
3	七十四銀行の第2次整理と当行への影響……………	92
	七十四銀行および横浜貯蓄銀行の整理の進捗状況——第2次整理案の成立——当行への影響——横浜貯蓄銀行の解散と七十四銀行の商号変更	
4	関東興信銀行との合併……………	98
	第4節 戦時経済体制下の経営……………	100
1	統制色強まる経済と金融……………	100
	高橋蔵相の登場——通貨政策と公債政策——馬場蔵相の積極財政——経済統制の進展——満州事変前後の県内経済の動き	
2	経営陣の交替と本店新築……………	108
	満州事変後の当行の経営——原初代頭取と井坂第2代頭取——住吉町に本店新築——本店新築前後の当行の業績	
3	七十四銀行の第3次整理とその結末……………	114
	第3次整理案成立への努力——第3次整理案の成立とそれによる支払の実行——七十四銀行の結末と当行の最終処理	

第3章 六行合同と戦後の苦難	118
第1節 太平洋戦争下の金融機関	118
1 金融統制と地方銀行	118
地方銀行と都市銀行——金融統制の展開——膨張する戦時財政	
2 戦時下の神奈川県経済	122
3 一県一行主義の推進	125
一県一行の完成へ——県内の一県一行実現まで	
第2節 倍增する店舗，拡大する業容	128
1 県下6行との合同	128
6行との合同実現——合同の成果——高安頭取と柳沢頭取	
2 都南貯蓄銀行との合同	131
合同までの経過——空襲下の引継ぎ	
3 戦時下の経営努力	133
株主配当の開始——預金増強施策——深刻な人員不足——非常対策——戦時下の当行業績	
第3節 戦後経済の混乱と当行の再建整備	141
1 経済の混乱と企業の再建整備	141
戦後の混乱——激化するインフレーション——混乱期の神奈川県——戦時補償の打切りと企業の再建整備——金融機関の再建整備	
2 当行の再建整備と増資	147
新旧勘定の分離と旧勘定の処理——新資本金1億円への増資——行内諸体制の整備——激変期の当行業容	
第4章 飛躍への基礎固め	154
第1節 経済の復興とその後の発展	154
1 インフレーションの収束と自立経済体制の確立	154
復興への足がかり——傾斜生産方式と復興金融金庫——戦後経済の転機——経済	

安定9原則とドッジ・ライン——デイス・インフレーションの展開とオーバー ローンの激化——朝鮮動乱ブームとその後の反動——自立経済への歩み	
2 戦後における金融制度の改革……………	158
金融制度の民主化——金融機関の再編成とその整備	
3 20年代後半の神奈川県と横浜の経済……………	162
県内経済の復興——横浜の経済復興遅れる	
第2節 吉村頭取の就任と30周年……………	166
1 経営体制の刷新……………	166
吉村成一第5代頭取に就任——機構改革と役員の異動	
2 創立30周年……………	168
祝賀式典と記念行事——日本銀行借入金の完済	
第3節 飛躍への体制づくり……………	170
1 経営近代化への努力……………	170
諸制度の改善——機構改革と業務合理化懇談会の設置——事務の合理化	
2 資産再評価と調整勘定の整理……………	175
資産再評価——調整勘定利益金の分配と調整勘定の閉鎖	
3 業容拡大への試練……………	178
朝鮮動乱前後の業況——繊維恐慌の発生と救済融資——業績の低迷とその打開 への努力	
4 体質改善への努力……………	186
経理内容の改善——店舗網の整備と人員の増強——自己資本の充実——資本金 7億円へ——外国為替業務の取扱い開始——役員の異動——福利厚生面の充実	
第4節 横浜興信銀行から横浜銀行へ……………	193
1 行名の変更……………	193
新しい時代へ——行名決定までの経緯——「横浜銀行」と改称	
2 スリー・シップスの船出……………	197
行章の決定——行名変更の効果と今後の課題	

第2部 躍進の時代 201

第1章 高度成長経済下の当行の発展 205

——神奈川県経済の発展とともに——

第1節 日本経済の成長と神奈川県経済の発展 205

1 高度成長の進展と開放体制への移行 205

30年代の高度成長——開放体制への移行

2 神奈川県経済の成長 209

工業の発展と地域開発——変化する横浜の経済

第2節 業容の伸展と経営体制の充実 214

1 躍進遂げた業容 214

預金1,500億円の達成——3,000億円実現への挙行体制——企業取引基盤の充実
——大衆化の幕開けと預金部の新設——消費者金融の展開

2 充実する経営体制 223

常務会事務局の新設と制度・機構の整備——頭取室の発足と総合予算制度の実施——新体制下の機構改革——教育基本方針とトレーニング・プログラム——株式の上場と増資——役員の変動——福利厚生の実施

3 本店新築と店舗網の拡充 232

新本店完成と40周年——整備進む店舗網——店舗行政の弾力化と他行の県内進出——拡充遂げた店舗網

4 事務の集中と機械化の進展 240

為替事務の集中——文書の集中保管とファイリングシステム——PCSの導入——事務機械化の進展——オフラインの開始——手形の集中と準交換制度

5 吉村頭取の死去 247

銀行葬——吉村頭取時代の業績

第3節 伊原頭取の就任と発展期を迎えた当行 249

1 伊原隆第6代頭取に就任 249

2	新体制下の業容拡大と体制整備	250
3	45周年の諸行事	251

第2章 高度成長の新展開と当行

——地域社会の繁栄に貢献しつつ——

第1節 40年不況から高度成長へ

1	高度成長の再開と国際化の進展	253
	財政政策の転換——いざなぎ景気の展開——自由化の進展	
2	金融効率化行政の展開	256
	金融効率化の背景と理念——統一経理基準と金融二法——金融効率化のための諸施策	
3	高度成長続く神奈川県経済	259
	人口の急増と住宅団地の開発——高度成長を支えた工業の伸展と商業の台頭——地域開発の進展	

第2節 躍進する業容

1	業容拡大への努力とその成果	265
	5,000億円の目標掲げて——日本一のよい銀行めざして——厚み増す融資基盤——進む店舗の大型化——効率的業務運営をめざす機構改革——充実する自己資本——役員の異動	
2	大衆化の推進と業務の多様化	277
	大衆化路線の定着——多様化する大衆化施策——全国一の住宅金融公庫業務	
3	進む事務の合理化と機械化	281
	本部集中処理の進展——自動振替の集中処理——店頭体制の整備と事務の改善——オフラインからオンラインへ——データ通信の発足	
4	外国為替業務の進展	288
	体制整備と人材育成——業務分野と取扱い高の拡大——マルク債の幹事銀行に	
5	充実する人事施策	291
	能力主義人事の導入——進む研修の体系化——増進する福利厚生	

第3節 地元銀行としての当行	296
1 コミュニティバンクへの道	296
2 地域社会への貢献	298
3 半世紀の風雪に耐えて	300
50周年の記念行事	
第3章 変貌する日本経済と当行	304
— コミュニティバンクの理念掲げて —	
第1節 高度成長から低成長へ	304
1 国際通貨体制の動揺と円切上げ	304
円切上げから変動相場制へ—円切上げ前後の経済情勢	
2 低成長時代への転換	306
石油危機とインフレの高進—戦後最大の不況へ—変化する金融構造	
3 神奈川県経済の変貌	310
県内経済の成長鈍化と工業の伸び悩み—商業の進展—変化する人口増加の パターン—地域開発の変貌—地方財政の悪化	
第2節 発展を続ける当行の業容	318
1 1兆円達成とその後の伸展	318
1兆円への道—中期計画の策定—2兆円への挑戦—新しい商品の開発 —役員の変動と増資—拡充される福利厚生	
2 組織の活性化と人材育成計画	326
地区本部制の導入と個人融資部の新設—本部の課制廃止—東京における本 部機能の強化—企画・推進部門の明確化—人材育成計画の策定	
3 業務効率化の推進	330
プロジェクトチームによる体質分析—業務効率化委員会の設置—3S委員 会の答申—業務効率化の展開—人の効率化の推進	
4 地域に密着する店舗ネット	336
引続く他行店舗の県内進出—地域開発に対応した県内店舗網の整備—“動	

く銀行” —移動出張所の新設—首都圏に広がる店舗網

第3節 多様化する資金運用	340
1 変化する融資構造	340
融資環境の変化—製造業の比重低下—中小企業融資の伸展—融資規制の展開	
2 パーソナルローンの進展	344
住宅ローンの充実—消費資金の多様化	
3 比重高まる公共資金	347
第4節 総合オンラインの完成	350
1 オンライン計画の推進	350
オンラインまでの経緯と背景—総合オンライン計画の策定—システム開発室設置と事務センターの完成	
2 オンラインの実現	353
オンライン転換体制の整備と推進—総合オンラインの完成とその成果	
3 CDの導入とその後の普及	355
当行独自のCD開発—店舗外に進出するCD—NCSへの参加—CDカードの推進とその普及	
第5節 国際化時代と当行の対応	360
1 進む地域社会の国際化	360
外貨準備高の急増と海外投資の伸展—県内企業の国際化の動き	
2 国際業務体制の拡充	362
本部機構と海外店舗—業務体制の拡充と業績の伸展	
第6節 地域とともに歩む当行	366
1 コミュニティバンクの理念と活動	366
コミュニティバンクの展開—地域社会貢献委員会の設置—新しい業務分野の開拓—地域のプロジェクトへの参画	
2 開かれた銀行めざして	369

コンシューマリズムの台頭と企業批判——サービス推進担当取締役の設置——
小冊子「コミュニティバンク」の発刊——地域社会との対話を求めて顧客部を
新設

第7節 吉國頭取の就任と新たな飛躍へのスタート	373
1 吉國二郎第7代頭取に就任	373
頭取の引継ぎ——吉國頭取の就任	
2 伊原会長・吉國頭取体制下の経営	375
コミュニティバンクの理念を貫く——2兆円の達成とその地固め	
3 伊原会長の死去	378
関係4団体で合同葬——伊原会長時代の業績——新たなる決意	

第4章 転換期の銀行像を求めて 382

——コスモプランと60周年——

第1節 安定成長への道	382
1 国際協調の高まり	382
変動相場制の定着——国際通貨安定への努力——円高と貿易摩擦	
2 国債大量発行下の経済	386
揺れ動く財政・金融政策——国債増発と金融機関	
3 変化する経営環境	389
競争の激化と経営効率の悪化——新金融効率化行政の展開	
第2節 コスモプランの実現めざして	393
1 コスモプランの策定へ	393
地固めから新たな飛躍へ——コスモプラン策定の背景——コスモプランの概要 ——コスモプランのスタート	
2 業容拡大と基盤強化の諸施策	400
取引基盤の強化——国際化施策の進展——戦略的な店舗展開	
3 経営体質強化の諸施策	408
活力ある組織づくり——第2次総合オンラインへの移行——計画的人事運用の	

展開——収益管理の強化——地域社会への貢献——役員の変動と増資	
4 コスモプラン下の当行の業容……………	415
総預金3兆円を突破——資金運用の変貌——飛躍する国際業務	
第3節 60周年を迎えた当行……………	421
1 当行を支える60年の歴史……………	421
2 “Big Jump 運動”の展開……………	423
3 60周年記念事業と行事……………	425
4 創立60周年を迎えて……………	427

資 料

現 況……………	429
60年の歩み……………	457
営業店の沿革と現況……………	515
資料文書……………	605
財務諸表……………	647
年 表……………	679
あとがき	

題字 吉 國 二 郎

凡 例

1. 本書の内容は、原則として昭和55年9月末日までとしたが、部分的にはそれ以降についても記述した。
 2. 用語については原則として当用漢字、現代かなづかいによったが、引用文・資料などについてはできる限り原文を尊重した。
 3. 人名については、慣例にしたがい敬称を省略し、法人についても、原則として株式会社等の法人格名称を省略した。
 4. 本文中の地名については、神奈川県内を主体に記述したため、県名を省略した。また記述中「県内」とあるのは神奈川県内のことである。
 5. 資料出所は原則として書名のみ掲げ、当行内部資料については省略した。
 6. 統計表中、単位未満の数値はすべて四捨五入した。
-